

まいにちから、
まんいちまで。



北海道医療センターニュース

山の手だよ!!

2016年
2月発行

No.16

【理念】

「人と自然の健康と調和を大切にする医療を実践します」

■発行所 / 独立行政法人 国立病院機構 北海道医療センター

■発行責任者 / 事務部長 池上 和孝

札幌市西区山の手 5 条 7 丁目 1-1 電話 (011)611-8111 / FAX.(011)611-5820

ホームページアドレス <http://www.hosp.go.jp/~hokkaidomc/>



キャンドルライトフォワードینگ

16

号

目

次

- 新年のごあいさつ 北海道医療センター 院長 菊地 誠志 ……2
- 北海道医療センター部門のご紹介 整形外科の紹介 整形外科医長 山崎 修司 ……3
- 耐性菌を増やさないために
抗菌薬（抗生物質）を正しく使いましょう 感染対策室長 網島 優 ……4
- 北海道医療センター ボランティア活動状況 西野 一・西野 衣榮 ……5
インフォメーション…… ボランティア募集のお知らせ・診療科のご案内 ……5
- イベント報告 ロビーコンサート&クリスマス会 ……6
- キャンドルライトフォワードینگ ～看護師を目指して決意を新たに～ ……6
インフォメーション…… ボランティアコンサート募集のお知らせ ……6





あいさつ



新年のごあいさつ

北海道医療センター院長 菊地 誠志

近年にない暖冬で明けたと云われる新年ですが、札幌の冬はまちがいなく寒いです。

医療を取り巻く状況も、温暖化からはほど遠い、極寒状態といえるでしょう。しかし、じっと冬眠しているわけにはいきません。

これからの数年は、地域医療構想（ビジョン）の策定と、それに伴う病院機能の分化に、否応なしに取り組まなければなりません。2025年問題（団塊の世代が後期高齢者になる）を見据えて、そのニーズにあった医療体制を構築するということは、急性期病床の大幅な削減になります。その目的のひとつは「骨太の方針2015」にあるように、財政健全化・社会保障費の抑制です。診療報酬の改定作業も進んでいますが、上に述べた目的を達成するために、アメとムチでどのように誘導しようとしているのかが見えてきます。

「保健医療2035」というのを知っていますか。

2025年のさらに10年後がどうあるべきかを、保険医療分野の若手オピニオンリーダーたちと、関係省庁の若手エリート官僚が未来を描きました。いくつかの提言から見えてくるのは、地域ごとの保険医療を、予防医学も含めて全て包括したアウトカムで評価するということかと思います。地域医療構想の完成型といえます。

その担い手の主役は地域の住民です。地域住民が何をどのくらいのコストで希望するかを提案し、地域のすべての保険医療機関が一体となってそれを請負うということでしょうか。考え方としては、米国の一部地域ですで行われているIDS（Integrated Delivery System）に似ているのかと思います。ただし、米国の場合は、保険会社がイニシアティブをとっていて、いくつかの医療提供グループが請負を競い合うということで、サービスの質とコスト削減の一石二鳥を目指します。

サービスの質が確保されるというのは、予防医学を軽視し、また、コストだけを考えた手抜きで一時しのぎのサービスを行うと、結局、その後のコストが増加して、トータルのコストは上昇することです。保険会社からの請負額が前もって決まっていますから、収益は下がるということになります。

日本の場合は、公的医療保険であるということが大きく違いますが、地域の保険医療機関が連携を密にし、非効率的で無駄な機能・人員・医療機器のオーバーラップをなくし、地域住民のニーズに低コストで応えるという発想には賛成できます。

さて、毎年、新年のご挨拶には、干支に関してひとこと触れてきました。今年は、個人的なことですが、わたし自身が、申年生まれの年男（60歳）です。

「六十にして耳順」のはずですが、わたしにとっては、「四十にして不惑」の「不惑」を、いまさらながら60歳の目標にします。つづく五十の「知命」、六十の「耳順」にはまだまだ遠く及びません。昔60歳と言えば、稀であるがゆえに目出度く、そして、そろそろ人生の終末ということだったと思います。「人生の最終段階における医療の決定プロセスに関するガイドライン」が改定になりました。他人事がわが身のことになってきました。

北海道医療センター / 部門の紹介!



まいにちから、
まんいちまで。

整形外科の紹介

整形外科医長
山崎 修司

「外反母趾(がいはんぼし)」は、専門医による適切な治療を ～身体の歪みを引き起こす原因にも～

北海道医療センターの整形外科では、このたび「外反母趾」の専門治療ができるようになりました。成人女性を中心にお困りの方の比較的多い足の疾患ですが、専門的に扱う病院が意外に少ない現状にある「外反母趾」についてご紹介します。

整形外科医長



整形外科医長
山崎 修司

■症状と原因

「外反母趾」は、足の親ゆびが付け根の関節のところで人差しゆびの方向に「くの字」に曲がってしまう状態です。原因は老化やハイヒールなどの履物の影響がありますが、中にはリウマチなどの関節が変形してしまう病気で起こる場合もあります。重症になると親ゆび以外にも足の色々な部位に痛みを生じ、履物選びも制限されて日常生活上の大きな障害になります。

■予防と治療

初期には「専用の中敷き」や「指の間に変形矯正用のスペーサーを挟む」ことで改善や進行予防が得られることがありますが、進行すると変形のために飛び出した親ゆびの付け根が靴の内側にぶつかって痛み出したり、足の裏に疼痛を伴うタコができて歩行に支障を来し、身体の歪みを引き起こす原因にもなりかねません。残念ながら、一度曲がった親ゆびが自然に戻ることはありませんので、生活に支障を来す場合は、手術治療が必要になります。

■手術方法

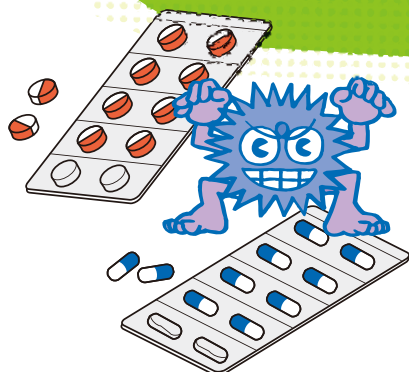
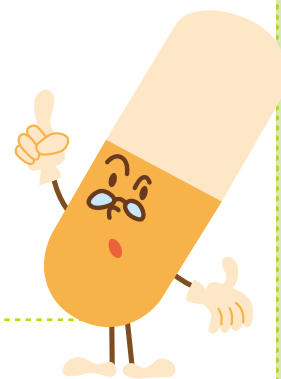
手術は、変形を引き起こしているスジ(母趾内転筋)を切り、さらに飛び出した付け根の骨に切れ目を入れて変形を完全に矯正した状態でスクリューやワイヤーで固定する処置を行います。

以前は、手術後1ヵ月は歩行できませんでしたが、当院の整形外科医長 山崎修司が2006年に考案したワイヤーの本数と刺入方向に工夫を加えた方法(医師用手術手技指導書収載)で行うと、翌日から歩行することが可能で、手術後3週間前後での退院が可能です。

コラム

耐性菌を増やさないために
抗菌薬(抗生物質)を正しく使いましょう

感染対策室 網島 優

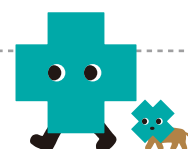


耐性菌(抗菌薬が効かない細菌)についての記事や番組を目にした方もおられるかと思いますが、実際の医療現場でも大きな問題となっており耐性菌をこれ以上増やさない方策として「抗菌薬の適正使用」を推進する様々な活動を当院でも行っております。

ただし耐性菌が増える原因は医療機関だけではなく、家畜の飼料に混ぜる抗菌薬の影響が以前から指摘されていますし、外来で処方される抗菌薬が家庭で正しく使われない場合があることも一因と考えられています。

以下の点に気をつけて正しく抗菌薬を使用していただければと思います。

抗菌薬を使用する際に気をつけること



1 処方された抗菌薬を指示通りに使う。

抗菌薬の1日の量や使用期間は病気に応じておおむね決まっています。症状がなくなったからといって途中で止めてしまったり、自己判断で量を調整するとすぐに再発したり耐性菌をつくる原因となります。副作用などで指示通りに服用できない場合は処方された医療機関や薬局に相談して下さい。

2 飲み残した抗菌薬を他の人にのませない。

症状が同じでも原因の細菌が違うことがありますし、そもそも抗菌薬が効かない病気の可能性もあります。また性別、体格や内蔵機能の違いなどから処方された方には起きなかった副作用が見られることがありますので流用することはおやめ下さい。

3 抗菌薬の処方を医師に要求しない。

「風邪を早く治すために抗菌薬を下さい」、「ひどくならないように抗菌薬を下さい」と医師に要求される方が時々おられますが、ご承知のように風邪やインフルエンザの原因であるウイルスには抗菌薬は効きませんし、抗菌薬が風邪の合併症として起きる肺炎などを予防できるという根拠もありません。持病のある方には風邪症状の際に一緒に抗菌薬を処方する場合がありますが、あくまでも医師の判断によります。

そして 耐性菌が増えて、将来抗菌薬が使えなくなる時代を迎えないように賢く抗菌薬を使いましょう。

100年後のこども達に
抗菌薬をのこすために

**SAVE antibiotics,
SAVE children**

未来の子どもたちのために抗菌薬を大事に使う



その抗菌薬、本当に必要ですか？



レポート

北海道医療センター ボランティア活動状況

西野 一・西野 衣榮

2010年3月。旧西札幌病院の地に札幌南病院が統合され、『北海道医療センター』として新築開院と同時に5月から私たちボランティアは5人のメンバーでスタートしました。

6年目の現在、担当曜日を決め、週に1回の割合で午前8:30から11:00まで対応しております。

主な仕事は、来院される方の受付案内です。初診の手続き、再来機での受付の手伝い、受診料及び院内施設への案内、車椅子の介助です。患者さんの他にも様々な方が来院されますが、できる限りお答えできるよう日々心がけております。

私達にとっても学びの場でもあります。幼い子の検査結果を聞きに来院したお母さんが良い結果を涙ぐんで報告して帰られた姿が印象深く思い出されます。患者さんだけでなく、付き添う人も同じく病んでいらっしゃる気付かされます。

少しの会話で心とんで帰られるのを見ると細やかな傾聴ボランティアも担えたこともうれしく思います。

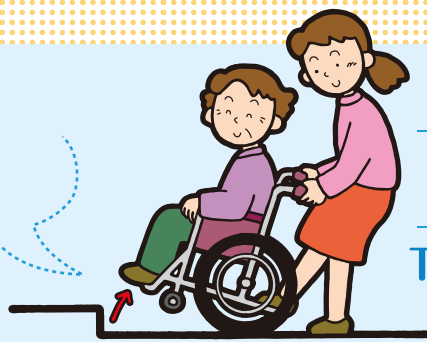
7月から園芸ボランティアが2人増え、手入れされた花壇は生き生きしました。現在のところ、受付案内と園芸のみで組織小さく日も浅く、人数も少ない乍ら活動しており、他の病院より身近で家族的な感じです。

病院がますます充実する事を私達の願いとし、地域住人として少しでもそのお役に立てればとボランティア一同頑張っています。



インフォメーション

当院では年間をとおして
ボランティアを募集しております。



連絡先

TEL:011-611-8111
(内線 5130)

診療科のご案内

北海道医療センターには全 28 もの診療科があります。

 神経内科	 呼吸器内科	 消化器内科	 循環器内科	 アレルギー科	 リウマチ科
 小児科	 外科	 整形外科	 脳神経外科	 呼吸器外科	 心臓血管外科
 小児外科	 皮膚科	 形成外科	 泌尿器科	 婦人科	 眼科
 耳鼻いんこう科	 リハビリテーション科	 放射線科	 麻酔科	 救急科	 総合診療科
 内科	 糖尿病・脂質代謝内科	 腎臓内科	 精神科		

イベント



ロビーコンサート リンデンバウム クリスマスコンサート

ソプラノ 井関 英津子

テノール 松本 寛

ピアノ 堀 千郁

プログラム

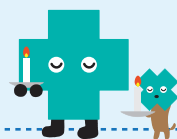
四季の歌、手のひらを太陽に、野ばら(歌ソロ)、
暹生の宿(歌ソロ)、クリスマスのお話とピアノ曲メドレー など12月
25日

クリスマス会

12月
24日

～看護師を目指して決意を新たに～

キャンドルライトフォワードینگ(表紙写真)



北海道医療センター附属札幌看護学校では、昨年11月18日(水)に「キャンドルライトフォワードینگ」を行いました。

「キャンドルライトフォワードینگ」は看護師を目指す看護学生1年生の病院実習が始まる前に、ナイチンゲール像からの灯を教員から学生一人一人に託されていくものです。

この灯は、ナイチンゲールが、クリミア戦争の戦場でキャンドルの灯を手に負傷した兵士が横たわる暗い

病床を廻り看護をしたことに由来し、そのナイチンゲールの灯を受け継ぎ、灯を手に看護師を目指して未来に向かって前進する決意を新たにしている日としています。

※以前、このセレモニーは「戴帽式(たいぼうしき)」と呼ばれ、ナースキャップを頭に載せていましたが、現在の臨床現場では感染防止の観点からナースキャップをつけていないため、当校では「キャンドルライトフォワードینگ」としています。

インフォメーション

当院では年間をとおしてボランティア
コンサートを募集しております。



連絡先

TEL:011-611-8111
(内線 5130)

北海道医療センターニュース

山の手だより

No.16

2016年2月発行

まいにちから、
まんいちまで。



独立行政法人 国立病院機構

北海道医療センター

〒063-0005 札幌市西区山の手5条7丁目1番1号

TEL.011-611-8111 北海道医療センター

検索



QRコード

